

第1回山口県大型児童館整備基本構想検討委員会における主な意見

■議題：大型児童館の機能・役割について

主な意見	資料 1－1 における反映箇所及び記載内容	
○今後、機能・役割を具体的にどのように実現していくのかを考える際に、それを形づくるための明確なテーマやコンセプトが必要である。	P1	[コンセプト] 子どもたちの夢が山口県の未来とつながる“サード・プレイス” －山口県の未来を創る子どもたちの豊かな心と生きる力の育成－
○公園があっても、熱中症のリスク等により、実際に外に出て遊べない状況があるため、室内でしっかり遊べる場所が必要である。	P3 P7	[取組の方向性] <u>天候や季節に左右されることなく利用できる、大型児童館ならではの大規模な屋内遊具の導入や、保護者を含む幅広い世代にとって魅力のある空間づくりの実施</u> [施設整備方針のポイント（案）] 気象状況にかかわらず、利用者が遊びや体験を十分に楽しむことができる屋内機能
○児童館は、大人が子どもに付き添って利用することが多いことを踏まえ、大人も行きたくなるような、大人が子どもに勧められるような魅力を持つことが大切である。	P3	[取組の方向性] 天候や季節に左右されることなく利用できる、大型児童館ならではの <u>大規模な屋内遊具の導入や、保護者を含む幅広い世代にとって魅力のある空間づくりの実施</u>
○子どもたちはインターネットで多くの情報を得ているが、実際の体験や人とのリアルな交流が不足していると感じている。子どもの興味に応じて、専門家やプロの人と出会い、つながれる機能があるとよい。	P3	[取組の方向性] 文化芸術、科学・宇宙、デジタル技術等の多様な分野に実際に触れ、体験する機会や、専門家等による実演・指導など本物に接する機会の提供
○山口県唯一の大型児童館として、公共施設だからこそ担える役割がある。他の子どもの遊び場と同じではなく、山口県環境を活かして、山口の魅力を集めた施設とすることが重要である。	P3 P7	[取組の方向性] 民間企業や大学等との連携・協働による、産業や自然、歴史文化など本県の様々な魅力に触れる特色ある展示・体験プログラムの実施 [施設整備方針のポイント（案）] 郷土のことをもっと知り、山口県人としてのアイデンティティの確立につながる施設内容
○交流の場としての機能について、「障害児（者）等にも配慮」と記載されているが、外国にルーツを持つ子どもなど多様な背景を持つ全ての子ども・若者が含まれるよう、「インクルーシブ」という表現にしてはどうか。	P4	[機能等の概要] 子どもを中心に、多様な人々が世代を超えてつながるとともに、誰もが安心して過ごすことのできる、インクルーシブな交流の場を創出する。

○中高生の居場所が少ないと感じている。他の児童館にはない県の大型児童館の機能として、中高生が安心して集える新しい居場所になるとよい。大型児童館がそうした場のモデルとなり県内に普及させていくとともに、スタッフの養成等も行う中間支援的な役割を果たすことが期待される。		
○フリースペースとして机がおいてある施設では、多くの中高生が利用してグループで勉強している。目的が決まった部屋だけでなく、自由に使える空間が必要である。	P4 P5 P7	[取組の方向性] ・子どもの年齢や発達段階に応じて安心・快適に過ごせる交流スペース、安心して自由に過ごすことのできるフリースペースや学習スペースの提供 ・中・高校生世代までの幅広い年齢の子どもが、共通の趣味や興味でつながる仲間と共に、主体的かつ自由に取り組む文化芸術の活動スペース及び発表の場の提供 ・児童館連絡協議会等を通じた児童館同士の情報交換・共有の促進や、児童館館長・児童厚生員など関係職員に対する研修等の実施 [施設整備方針のポイント（案）] 幼児や児童だけでなく、中・高校生世代にとっての新たな居場所・交流・活動の場づくり
○実際に音楽活動等を始めようとすると、場所が限られており、制限が多いのが現状である。若い世代は音楽活動等に一生懸命取り組んでおり、思いを持って活動しているため、そうした若者が集まれる場所になるとよい。		
○不登校の子どもも安心して長く過ごせる福祉的な居場所としての機能があるとよい。大型児童館が直接その機能を持つことが難しい場合でも、地域のそうした居場所を把握し、紹介できる機能が必要である。	P4 P6	[取組の方向性] ・子どもの年齢や発達段階に応じて安心・快適に過ごせる交流スペース、安心して自由に過ごすことのできるフリースペースや学習スペースの提供 ・不登校、ひきこもり、発達に特性のある子どもなど、多様な支援ニーズを有する子どもや子育て家庭に対する関係機関と連携した相談支援や、適切な支援機関への橋渡し
○インターネットやICTの普及で、子どもの遊び方は大きく変化している。今後は、ICTを活用した新しい交流・遊びのプログラムを開発し、発信する拠点が必要になってくるのではないか。	P5	[取組の方向性] 様々な環境変化や技術革新の中で、子どもの遊び方も大きく変化していることを踏まえ、将来的な子どもたちのニーズも見据えた新しい遊びのプログラムの開発・普及
○災害時、障がいのある子どもが安心して過ごせる場所が少ない。避難後の心身のケアとして、遊びや余暇を過ごす時間は重要な役割を果たすため、大型児童館が、被災後のケアにつながる遊びのプログラムを考え、発信できる拠点となるとよい。	P5	[取組の方向性] 災害時において被災した子どもたちをケアするための遊びのプログラムの開発と、提供に係る広域的な支援

○大型児童館を子ども・子育て支援の拠点とするとともに、子どもたちの視点に立った支援を行っていくためには、学校・児童館・児童福祉施設・こども食堂など地域の支援機関が連携し、子ども・若者の声を集めて、大型児童館に適切につないでいくことが重要である。	P6 P7	[機能等の概要] 子ども・子育て支援機関や支援団体、地域活動団体等をつなぐ拠点として、関係主体間の連携・協働を促進し、子どもや子育て家庭に対する支援ネットワークの充実を図る。 [施設整備方針のポイント（案）] 子どもの健全育成や子育て支援に係る関係団体等の活動拠点及び情報交換・情報発信の場づくり
○保育士養成課程の実習先や、放課後児童クラブの支援員の研修など、これまでの児童センターが果たしてきた役割は大きい。そうした子育て支援に関わる人材育成の拠点としての機能も持ち続けられるよう、研修などが実施できる汎用性の高いスペースが確保されるとよい。	P6	[取組の方向性] 保育士など子育て支援に関わる人材の育成機能の充実に向けた、実習や研修のための環境の確保
○山口県内の子どもたちのメッセージを聴取・発信する機能や、子ども施策への反映につなげる機能があるとよい。聴取した意見は、適切な機関へつなぐなど、橋渡しを行う役目を担ってほしい。	P6	[取組の方向性] <u>県内の子どもたちの意見の聴取・発信</u> 、県内の子ども・子育て支援情報の発信
○プラネタリウムはあまり他にない施設であり、求める声は多いと思う。整備されれば大型児童館の象徴的な存在になると思う。	P7	[整備案] 新たな大型児童館の象徴的な施設内容として、プラネタリウムを一層充実
○屋外と屋内の両方の遊び場が求められているため、広い敷地で、屋内外の遊び場が機能的にバランスよく配置された施設が望ましい。	P9	[対応の方向性] 山口きらら博記念公園に大型屋外遊具等が設置されている状況を踏まえ、大型児童館は、屋内機能を中心とした整備を基本とする。
○山口の自然に恵まれた環境を生かしてアスレチックを整備するなど、子どもが自由に遊べる場所を広げていけるとよい。	P9	[対応の方向性] 山口きらら博記念公園に大型屋外遊具等が設置されている状況を踏まえ、大型児童館は、屋内機能を中心とした整備を基本とする。
○文化芸術活動のためのスペースなど、児童館の設備の整備にあたっては、時代によって価値観が変化することを考慮し、将来のニーズも見据えて整備を行っていく必要がある。中高生など若い世代に直接ニーズを聴きながら整備を進めていただきたい。	P10	[対応の方向性] 今後、「児童館や大型児童館でどのようなことがしたいか」、「どのような遊具や設備があったら良いか」などについて、子どもたちから直接意見を聴取する。
○各地域のインクルーシブ公園の取組について、意見を聴取した上で、その意見を取り入れていくことが望ましい。	ー	(基本計画の策定段階で状況の調査を検討)